

# メトホルミン塩酸塩錠

250mgMT「TE」

500mgMT「TE」

を服用される方へ



—このお薬は、血糖を下げる糖尿病のお薬です。—

- ・まれに**乳酸アシドーシス**や**低血糖**を起こすことがあります。
- ・服用される前に、以下の注意をよく読んでください。

## 飲むときの注意

- 主治医または薬剤師の指示に従って、正しく服用してください。食事をとれなかったとき服用をどうするかは、主治医または薬剤師に相談してください。
- 飲み忘れた場合は、1回飛ばして次の服用時間から通常どおり飲んでください。**絶対に2回分を一度に飲んではいけません。**

## 服用中の注意

### ●乳酸アシドーシスを起こすことがあります。

#### (1) 乳酸アシドーシスとは…

- ・まれに血液中の乳酸が異常に増えて、血液がいちじるしく酸性に傾くことがあります。進行すると死に至る場合もありますので、早期治療と予防が大切です。
- ・腎臓や肝臓の機能が低下している患者さん、心臓や肺に病気がある患者さん、低酸素血症を伴いやすい状態（喘息や慢性閉塞性肺疾患など）、脱水状態が懸念される患者さん、過度のアルコール摂取者、感染症の患者さん、高齢者などで起きやすく、特に、脱水や過度のアルコール摂取などにより急変することもありますので、注意してください。

#### (2) 症状と対処方法

- ・吐き気・嘔吐、腹痛・下痢、倦怠感、筋肉痛、呼吸が異常に荒くなる（過呼吸）などの症状がみられます。これらの症状がみられたら、**すぐにメトホルミン塩酸塩錠MT「TE」の服用を中止し、主治医に連絡してください。**

#### (3) 乳酸アシドーシスを防ぐためには…

- ・**お酒を飲みすぎないように注意してください。**
- ・発熱、下痢、嘔吐、食欲不振のため食事がとれないなど、シックデイの際は**メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」の服用を中止し、主治医に相談してください。**
- ・利尿作用を有する薬剤（利尿剤、SGLT2阻害剤など）を服用している場合は、**脱水を起こすことがありますので注意してください。**
- ・**脱水症状にならないように、日頃から適度な水分摂取を心がけてください。**
- ・**脱水症状があらわれた場合には**メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」の服用をいったん中止し、主治医に相談してください。
- ・メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」を服用中は、定期的に腎機能や肝機能の検査が行われ、必要な場合は検査回数が増えることがあります。
- ・以下の場合はメトホルミン塩酸塩錠MT「TE」を服用していることを主治医または薬剤師に申し出てください。
  - ・手術を受けるとき
  - ・他の医師から新たに別のお薬を処方してもらうときや、薬局などで他のお薬を購入するとき
  - ・血管・尿路造影検査やCT検査など、ヨード造影剤を使用する検査や治療を受けるとき

## 服用中の注意



### ●低血糖症状を起こすことがあります。

#### (1) 低血糖とは…

- ・低血糖とは血糖値が低くなりすぎた状態で、進行すると意識を失うこともあります。
- ・メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」は低血糖を起こしにくいお薬ですが、他の糖尿病薬といっしょに服用すると低血糖を起こすことがあります。

#### (2) 症状と対処方法

- ・急に強い空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつきなどが起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。症状が重い場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。
- ・症状が軽いうちは糖分をとると治ります。早めの対応が重要ですので、普段から砂糖やブドウ糖を持ち歩き、低血糖の症状に気づいたら、がまんせず、すみやかに糖分をとってください。
- ・ただし、アカルボース(商品名:グルコバイなど)、ボグリボース(商品名:ベイスンなど)、ミグリトール(商品名:セイブルなど)をいっしょに服用している場合には、砂糖の消化や吸収が遅くなりますので、**必ずブドウ糖**を飲んでください。また、低血糖を起こした場合は、**必ず早めに主治医に報告**してください。

- ・低血糖を起こしていても、本人が気づかなかつたり、わからなかつたりすることがありますので、家族やまわりの方もいっしょに注意してください。
- ・高所作業や自動車の運転など危険を伴う作業に従事しているときに低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

#### メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」(実物大)

250mg錠



500mg錠



- ・薬の量や飲み方は、主治医または薬剤師の指導を正しく守ってください。
- ・また、この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

いつもと違うと感じたら主治医に相談してください。

連絡先等